

(仮称) 新大田区生涯学習推進計画 骨子案

令和3年10月21日版（第2回策定会議資料）

目次

第1章 計画の基本的事項.....	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ・期間	2
3 生涯学習と地域力	3
4 生涯学習に関する国・東京都の政策動向	4
第2章 大田区の生涯学習の現状と課題.....	5
1 大田区の生涯学習に関わる地域特性	5
2 区民・団体アンケート調査	12
3 団体ヒアリング調査	25
4 特色からみた現状と課題	26
第3章 計画の内容.....	28
1 基本理念	28
2 施策体系	29
3 施策・事業	30
第4章 計画の進捗管理.....	33
1 推進体制	33
2 進捗管理方法、数値目標・指標の設定	33

第1章 計画の基本的事項

1 計画策定の趣旨

大田区では、平成7年（1995年）に「大田区生涯学習推進基本構想」、平成9年（1997年）には「大田区生涯学習推進計画」、平成13年（2001年）には「第2次大田区生涯学習推進計画」を策定し、生涯学習推進に向けた施策・事業を展開してきました。

また、「大田区基本構想」で掲げた将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するため、区民一人ひとりのライフステージに合った学びの機会を提供するとともに、学習の成果を実際の活動に生かしたり、その活動を踏まえてさらに学びを深めたりという、個人の学びと活動が循環・拡大するための仕組みづくりを進めてきました。

一方、人生100年時代と言われる時代にあっては、より多様で豊かな生き方・暮らし方を実現し、健康でいきいきと暮らしていくために、必要な時に必要な学びを通じて成長していくことが求められます。

また、技術革新の進展やコロナ禍によって顕在化した情報や学習機会に係る格差の解消も課題です。

さらに、複雑化・多様化する地域課題を解決し、安心して暮らせる地域づくりを進めるために、これまで以上に学びの機会拡充や学びを通じた人と人のつながり・絆の強化及び地域づくりが求められています。

以上のように、生涯を通じて学ぶことの意義が再認識されており、生涯学習の重要性は益々高まっています。

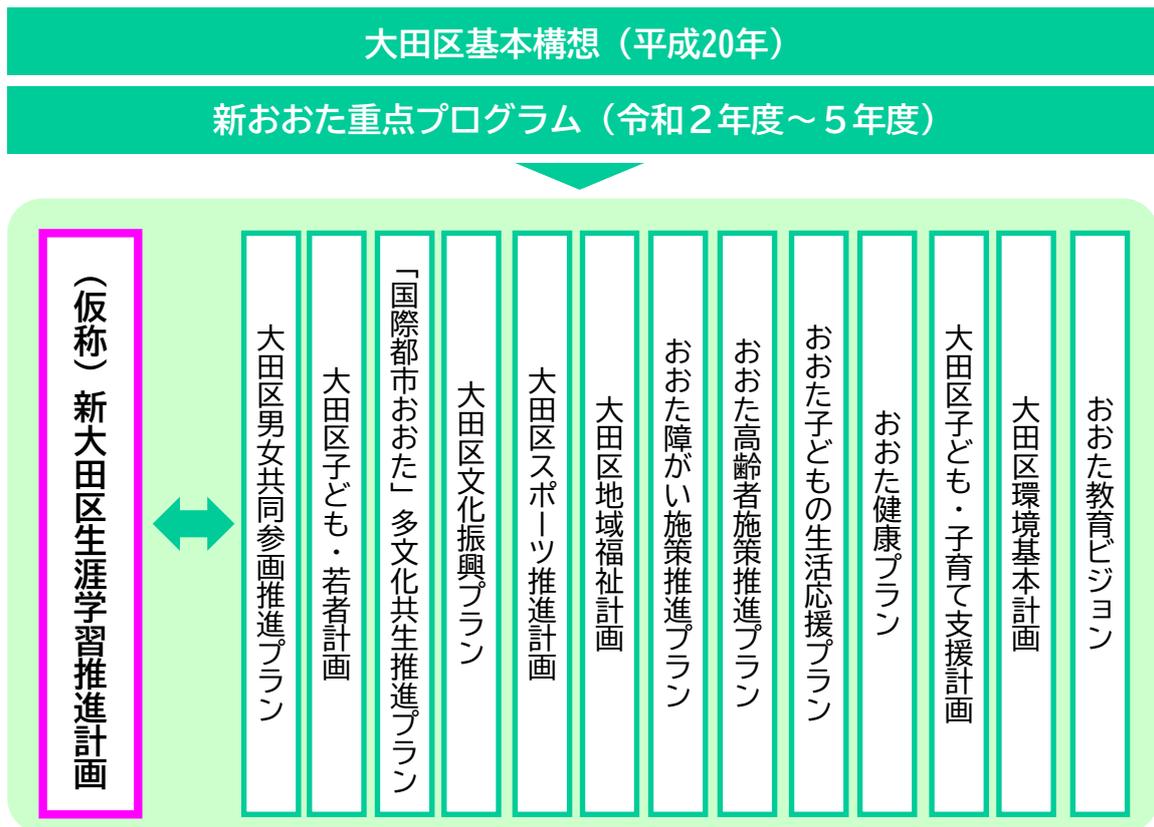
本計画は、学びを通じて個人の人生の豊かさを向上させるとともに、豊かな人と人とのつながりを創出することで、生きがいをもち、自分らしく安心して暮らすことができる地域の実現を目的として策定します。

2 計画の位置づけ・期間

(1)位置づけ

本計画は、大田区基本構想及び新おおた重点プログラムに基づき、本区における生涯学習の推進に向けた方向性を示すものであり、生涯学習の観点から区の将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市おおた」の実現に寄与する役割を担うものです（図表1-1）。

図表1-1 本計画の位置づけ



(2)期間

計画の期間は、令和4年度（2022年度）から令和6年度（2024年度）までの3年間とします。

3 生涯学習と地域力

(1)生涯学習の定義

教育基本法第3条に記されている生涯学習の理念を踏まえ、(仮称)新大田区生涯学習推進計画(以下、本計画)における生涯学習は、以下のように定義します。

【本計画における「生涯学習」の定義】

生涯学習とは、区民一人ひとりが、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において取り組む学習のことをいいます。

具体的には、読書、語学や資格の習得、趣味・教養、スポーツ、芸術・文化活動、生活・健康や仕事などに関する学習、サークル活動を指し、自治会・町会、NPO、PTA、子ども会、ボランティアなどの地域活動を通して得られる学びも範囲とします。

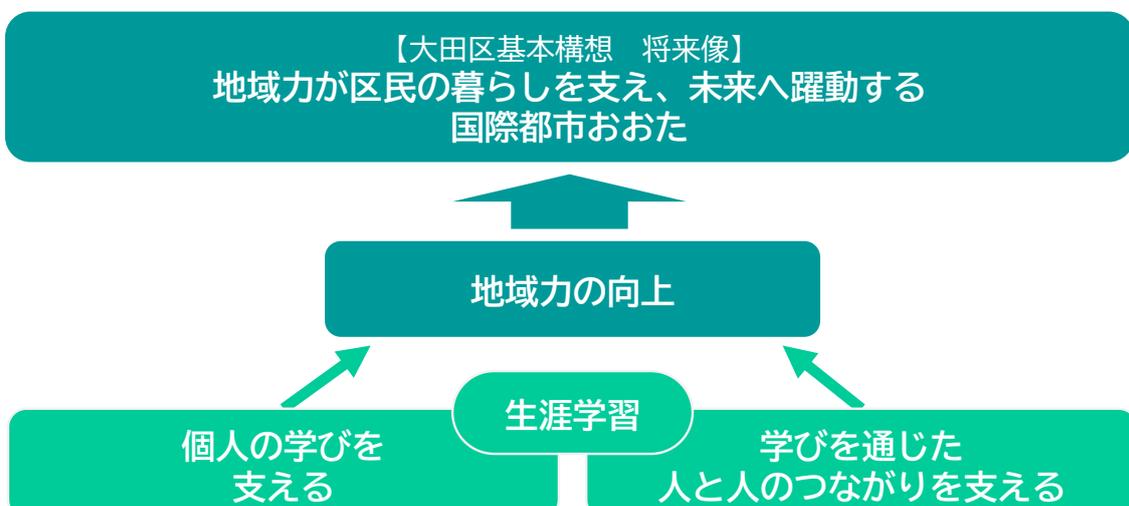
(2)地域力との関係性

「地域力」とは、区民一人ひとりの力を源として、自治会・町会、事業者、団体・NPOなど様々な主体が持っている力、それら相互及び区との連携・協働によって生まれる力を含んだものであり、防犯・防災、福祉、子育て、教育、産業、環境、国際交流、まちの魅力づくりなど、多様な地域の課題を解決し、魅力ある地域を創造していく力と定義されています。(平成20年10月14日 大田区基本構想)

地域における生涯学習は、学ぶ人に生きがいや心の豊かさをもたらすだけでなく、他の学ぶ人とつながるきっかけや、住んでいる地域に対する愛着を育むきっかけとなる場合があります。そして、学びを通じて、他の学ぶ人や地域とつながることにより、他者への理解や地域課題の解決に寄与すると考えられます。

学ぶことで、生きがいや心の豊かさを持った区民が増えること、また、学びをきっかけとして区民が地域とつながることで、地域力が向上すると考えられます。

図表1-2 生涯学習と地域力の向上との関係性



4 生涯学習に関する国・東京都の政策動向

(1) 国の政策動向

図表1-3 国の政策動向

平成18年 (2006年)	教育基本法の改正 第3条（生涯学習の理念「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」）を新設した。
平成20年 (2008年)	社会教育法の改正 生涯学習の振興に係る国及び地方公共団体の役割を明示した。
平成30年 (2018年)	「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」答申（第9期中央教育審議会） 地域における社会教育の意義や果たすべき役割について検討し、今後「『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」が一層重要であるとし、新たな社会教育の方向性として、より多くの住民の主体的な参加を得て、多様な主体の連携・協働と幅広い人材の支援により行われる社会教育、すなわち「開かれ、つながる社会教育」を提示した。
令和2年 (2020年)	「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」 新型コロナウイルス感染症への対応も踏まえ、社会の変化や課題を踏まえた新しい時代の生涯学習・社会教育の在り方を検討し、ICTの活用やデジタル・ディバイドの解消の重要性や「命を守る生涯学習・社会教育」という視点を打ち出した。推進の方策として、以下の5点について提言した。 ①学びの活動をコーディネートする人材の育成・活用 ②新しい技術を活用した「つながり」の拡大 ③学びと活動の循環・拡大 ④個人の成長と社会の発展につながるリカレント教育の推進 ⑤各地の優れた取組の支援と全国展開について提言

(2) 東京都の政策動向

図表1-4 東京都の政策動向

平成4年 (1992年)	東京都生涯学習審議会条例の公布
平成17年 (2005年)	「子ども・若者の『次代を担う力』を育むための教育施策のあり方について」答申（東京都生涯学習審議会） 学校・家庭・地域の教育力を再構築するための仕組みとして、地域教育プラットフォームを提案した。
平成20年 (2008年)	「東京都における『地域教育』を振興するための教育行政のあり方について」答申（東京都生涯学習審議会）
平成31年 (2019年)	「第4次東京都教育ビジョン」策定 国が定めた「第3期教育振興基本計画」を参酌し、東京都教育委員会が定める施策展開の基本的な方針を示した。12の「基本的な方針」を設定し、支える教育と伸ばす教育、都立高校改革、働き方改革等を新たに位置付けるとともに、30の「今後5か年の施策展開の方向性」を設定し、今後の事務事業の推進につながる「主な施策展開」を示した。
令和3年 (2021年)	「東京都教育施策大綱」策定 これまでの「東京都教育施策大綱～東京の輝く未来を創造する教育の実現に向けて～」の考え方や様々な取組による改革の流れを受け継ぎながら、いま直面している危機を乗り越え、明るい未来を切り拓くため、新しい時代の教育を確立することを目的に策定。 東京の目指す教育として「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」を示した。

第2章 大田区の生涯学習の現状と課題

1 大田区の生涯学習に関わる地域特性

(1) 区の人口・世帯（全体、地域別）

ア 人口・世帯数・1世帯あたり人数

4地域の中では、人口・世帯数ともに、大森地域が最も多くなっています。また、1世帯あたり人数は、調布地域が最も多い一方、蒲田地域が最も少なくなっています。

図表2-1 人口・世帯数・1世帯あたり人数（全体、地域別）

	合計	男性	女性	世帯数	1世帯あたり人数
区	732,726	363,391	369,335	400,417	1.83
大森	244,857	122,751	122,106	135,585	1.81
調布	190,153	90,238	99,915	97,157	1.96
蒲田	219,715	111,811	107,904	124,002	1.77
糀谷・羽田	78,001	38,591	39,410	43,673	1.79

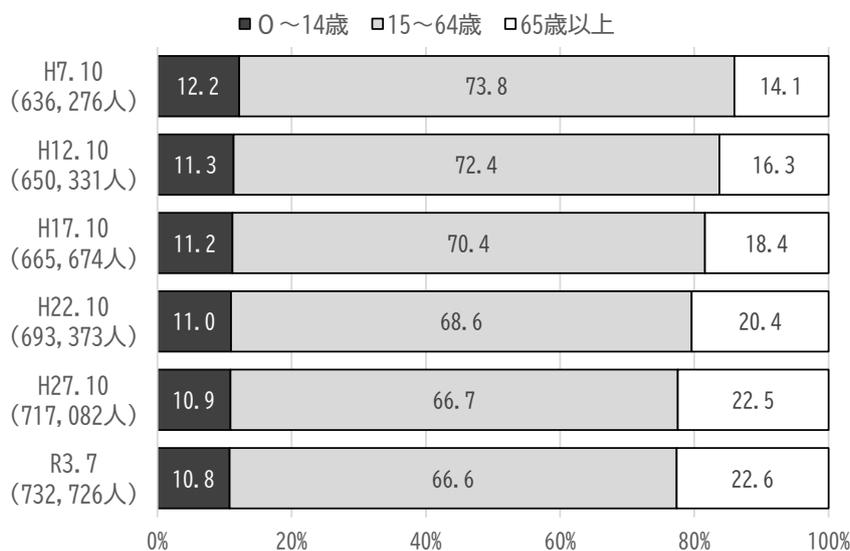
*大森地域：大森西、入新井、馬込、池上、新井宿、大森東
 調布地域：嶺町、田園調布、鶉の木、久が原、雪谷、千束
 蒲田地域：六郷、矢口、蒲田西、蒲田東
 糀谷・羽田地域：糀谷、羽田

出典：大田区住民基本台帳（令和3年7月1日現在）

イ 年齢別人口

年齢別人口の推移をみると、高齢化率が増加傾向の一方、生産年齢人口が減少傾向にあります。

図表2-2 年齢別人口の推移（全体）



出典：国勢調査（平成27年以前）、大田区住民基本台帳（令和3年7月1日現在）

(2)区の特徴

大田区は、日本の玄関口である羽田空港をはじめ、町工場、多摩川や臨海部の水辺空間、大規模な物流拠点や公園、文化・スポーツ施設、商店街、銭湯等、特色ある多様な社会資源を有しています。これらの社会資源を生かして、生涯学習を推進することで大田区らしい生涯学習を創出することができると考えられます。

図表2-3 大田区の社会資源

分野	特徴
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ○広大で自然が身近に感じられる多摩川河川敷の緑地は、グラウンドや散策路が整備され、地域の憩いの場になっています。 ○大森ふるさとの浜辺公園を中心として、大森スポーツセンター、大田スタジアム、森ヶ崎公園、大田区総合体育館に囲まれたエリアを新スポーツ健康ゾーンと呼称し、「区民のスポーツを通じた健康で豊かな暮らし」を実現するシンボルゾーンとする構想を掲げています。
文化	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館や記念館など、歴史や文化を伝える地域資源が豊富で、大正末期から昭和初期にかけては川端康成や尾崎士郎、村岡花子などの文士たちが住み「馬込文士村」と呼ばれたエリアもあります。 ○勝海舟の功績、地域の歴史等に関する資料を公開・発信する施設として、令和元年9月に大田区立勝海舟記念館が、また、区民の地域活動・文化活動の促進や、田園調布せせらぎ公園内の憩いの場として、令和3年1月に田園調布せせらぎ館が開館しました。 ○区内には図書館が16館あり、中でも令和3年3月に移転した池上図書館は、「歴史ある門前町の未来がはじまる知の拠点」をコンセプトとし、木材や畳を取り入れた居心地の良い空間となっています。 ○宿泊研修、団体生活等を通じて青少年の健全な育成を図るとともに、スポーツ、地域交流及び国際交流を推進する拠点として、令和元年10月に大田区青少年交流センターゆいっつが開館しました。
緑・公園	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年4月より開園したソラムナード羽田緑地をはじめ、緑道として整備された旧六郷用水や呑川沿いは、憩いの散歩道になっています。 ○西六郷公園や多摩川台公園等、季節の花が自慢の公園や面白い遊具がある公園、水辺を生かした公園等があり、区民の憩いの場となっています。
ものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○工場と住宅が混在した市街地が広がっています。 ○多様な製品を生み出す高度な基盤技術を持つ企業が集結し、連携し合いながら、製品を作り上げています。 ○約3,500の工場があり、「ものづくりのまち」として知られる「ものづくりの達人が集まったまち」です。
交通・空港	<ul style="list-style-type: none"> ○JR・東急・京急の路線が通る蒲田は、羽田空港や横浜などへのアクセス拠点になっています。
商店街	<ul style="list-style-type: none"> ○都内最多の商店街を有し、駅前以外にも数多くの商店街が形成されています。
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ○東京工科大学、東京工業大学、東邦大学等

(3)区のこれまでの取組

大田区では、昭和22年(1947年)の「社会学校」開設以来、社会の変化に伴う区民の要望や地域課題に対応して様々な学級や講座を実施してきました。昭和46年(1971年)に開設された「おおた区民大学」は今年で50年目を迎え、社会、歴史、人権など地域社会に密着したテーマを取り上げ、区民が参画する企画講座、区内教育機関等との提携講座、学んだことを活動につなげていく講座などを毎年開催しています。

平成7年(1995年)には、「大田区生涯学習推進基本構想」を策定、平成9年(1997年)「大田区生涯学習推進計画」、平成13年(2001年)には「第2次大田区生涯学習推進計画」を策定し、新たな課題に対応した学習機会の創出、自主的な学習活動の支援等に取り組みました。

平成20年(2008年)策定の「大田区基本構想」に基づき、平成21年(2009年)に策定された大田区10か年基本計画「おおた未来プラン」では、「生きがいと誇りをもって暮らせるまちをつくります」を施策の目標として、誰もが気軽に身近な地域で生涯学習に取り組める環境の整備と、人と人が交流し、学びあえる仕組みづくりを進めました。

平成27年(2015年)には、スポーツ、文化等に係る事業が教育委員会から区長部局(観光・国際都市部)に移管されました。また、教育委員会の権限に属する青少年教育、成人教育、社会教育関係団体の指導助言に関する事務については、区長部局(地域力推進部)において補助執行されることとなりました。区民協働・生涯学習担当では、学びが区民一人ひとりの人生を豊かにするとともに、人と人とのつながりや、地域づくりにつながることを目指して、学習機会の提供や生涯学習人材の育成などに取り組んでいます。

スポーツ分野では、「区民のスポーツを通じた健康で豊かな暮らし」を実現するシンボルゾーンとして「新スポーツ健康ゾーン」を掲げ、「するスポーツ」「みるスポーツ」の充実を図っています。また、スポーツを通じて区民が豊かで健康的な生活を営み、まちが賑わいと活力を増していくことを願い、平成24年(2012年)に「スポーツ健康都市宣言」を行いました。

文化振興分野では「誰もが文化に触れ、豊かな暮らしを送る」、「誰もが地域に魅力を感じ楽しむ」、「誰もが地域で自分らしく生きがいを持って暮らす」という3つの具体的な姿を設定し、区民・団体の自主的な文化活動の支援や大田区の文化の発信等に取り組んでいます。

令和3年(2021年)に策定された「大田区子ども・若者計画」では、「青少年健全育成のための大田区行動計画(第六次)」の総括評価や青少年問題協議会での意見を踏まえ、青少年を取り巻く現状と課題に対応するため、①子供・若者への支援、②支援を必要とする当事者及びその家族を含めた支援、③子ども・若者を取り巻く地域との連携に基づく支援という3つの視点で目標を設定し、取り組んでいます。

「大田区基本構想」で掲げる将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」の実現に向けて、区民一人ひとりのライフステージに合った学びの機会提供や学習の成果を生かした地域活動の充実を図り、個人の学びと地域づくりが循環する環境の整備を進めています。

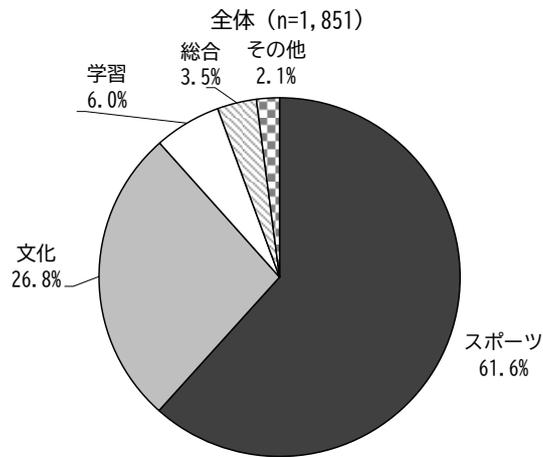
(4) 区の生涯学習に関する団体について

ア 社会教育関係団体

○区の生涯学習に関する団体として、令和3年3月末時点で更新が済んでおり、調査票発送日（7月中旬）時点で解散している団体を除いた社会教育関係団体についてまとめました。（令和3年4～8月に更新・新規登録した団体は含まれていません。）

○社会教育関係団体数は1,851団体であり、分野（大分類）別にみると、「スポーツ」が1,411団体（61.6%）で最も多く、次いで「文化」が496団体（26.8%）、「学習」が111団体（6.0%）、「総合」が65団体（3.5%）、「その他」が38団体（2.1%）となっています。

図表2-4 【上】区の社会教育関係団体の分野（大分類）別割合、【下】（中分類）別の団体数



スポーツ		文化		学習		総合	
バレーボール	242	合唱・唄	96	地域	37	団体交流、連盟	41
卓球	122	碁・将棋・麻雀	59	語学・国際交流	26	子ども会	15
バドミントン	121	楽器演奏	55	手話・点字	8	青少年育成	6
ダンス	94	絵画	46	教育	7	父母の会・PTA	3
武道	83	華道・茶道	30	パソコン	5		
バスケット	80	書道	24	障がい	5		
健康体操	57	映像創作活動	22	歴史	5		
ニュースポーツ	56	邦楽	21	読み聞かせ・朗読	4		
太極拳・気功・ヨガ	53	手工芸	19	政治・経済・法律	3		
野球	51	文芸	19	文学研究	3		
サッカー	46	裁縫	18	高齢社会	2		
テニス	34	詩吟	15	コミュニケーション	1		
社交ダンス	32	料理	15	家事家計	1		
ソフトボール	21	着付け	12	子育て	1		
水泳	17	陶芸	10	自然科学	1		
エアロビクス	12	彫刻	6	人権・平和	1		
野外活動	8	表現活動	5	哲学・心理学	1		
ドッジボール	5	舞踊	5				
体操	3	園芸	4				
その他球技	2	演劇	4				
ホッケー	1	環境問題	4				
ラグビー	1	ゲーム	3				
		表装	2				
		芸能	1				
		造形・工作	1				

*その他は、多種目にわたる活動等。

イ その他の生涯学習推進の実施団体

図表 2-5 その他の生涯学習推進の実施団体

団体名称	特徴
(公財) 大田区スポーツ協会	区内におけるスポーツを振興し、それにより区民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活の形成に寄与することを目的として活動しています。健康体操教室などの自主事業や区民スポーツ大会などの大田区からの受託事業のほか、指定管理者として大森スポーツセンター及び大田スタジアムの管理運営を行っています。
(公財) 大田区文化振興協会	区民の連帯と強調の輪を拡げ、地域文化活動の進行に努め、活力と思いやりのある文化福祉都市・大田区の実現に寄与することを目的として設立されました。 区の文化計画に沿って、施設での鑑賞・体験事業に加え、管理している文化施設を離れたアウトリーチ事業として演奏の提供や音楽指導などへの取り組みの充実を図るなど、広く区民が文化を享受するための活動にも力を入れています。
(社福) 社会福祉協議会	社会福祉法に基づき、地域福祉の推進を図ることを目的として、地域の中で住民や企業、行政、学校、他の福祉団体等と協力しながら地域福祉の向上に取り組んでいます。 おおた地域共生ボランティアセンターでは、ボランティア活動に関する普及啓発、従事者の育成・研修、活動団体同士のネットワークづくり、ボランティア活動等の紹介のほか、活動資金助成等を行っています。
(一財) 国際都市おおた協会	「観光」の魅力、「多文化共生」の大切さ、「産業」の力強さを伸長させることを目的として設立されました。 区の方針の下、地域との連携・協働を通じて、大田区における多文化共生、国際交流、国際人財育成、国際協力等を推進し、地域の活性化に寄与するため、活動を行っています。具体的には、外国人のための相談事業、日本語学習やコミュニケーションの支援、地域における国際交流の場の提供、多文化共生意識の理解啓発、災害時の外国人支援の取組などを行っています。

イ 区の生涯学習関連施設

生涯学習の範囲は多岐に渡っているため、区内の様々な施設において学習活動が行われています。当計画において検討する区施設は、図表2-6のとおりです。

昭和36年（1961年）に勤労青年向けの教育施設として開設された「青年館」を前身とした「文化センター」が区内に11か所設置されており、現在でも社会教育関係団体等の主な活動拠点となっています。

平成30年（2018年）に増改築工事を終了し、オープンした青少年交流センター「ゆいっつ」は、宿泊研修、団体生活などを通じて青少年の健全育成を図るとともに、スポーツ、地域交流及び国際交流等の活動拠点として活用されています。

令和3年（2021年）に移転した池上図書館は、区が目指す図書館像「図書等資料を仲立ちとして、人と人を出会わせ、結び付け、地域活動へと誘う『居場所』、『憩いの場』」を意図して設計され、コーヒーを飲みながらゆっくり読書ができる空間となっています。

上記の施設のほか、野球場47面（少年野球場含む）、ビーチバレー場4面、テニスコート7か所、キャンプ場が2か所あるなど、屋外活動のための施設も豊富です。

区内の生涯学習関連施設について、図書館、集会施設等が区全域に空白をつくらぬよう配置されています。また、多摩川河川敷や臨海部にかけて多様なスポーツ施設等が充実しています。さらに、区内各所からのアクセスが良好な蒲田・大森にホールや区民活動支援施設が配置されており、人々の交流の場、活動の発表の場等として活用されています。

図表2-6 その他の生涯学習推進の実施団体

用途別	施設数	概要
ホール等	5	池上会館、大田文化の森、大田区民プラザ、大田区民ホール、大田産業プラザ
区民活動支援施設	5	男女平等推進センター、こらぼ大森、区民活動支援施設蒲田、消費者生活センター、多文化共生推進センター
図書館	17	図書館16館、図書館同種施設1館
展示等施設	10	郷土博物館、大森 海苔のふるさと館、大田区立熊谷恒子記念館、龍子記念館、旧川端龍子邸、尾崎士郎記念館、山王草堂記念館、馬込文士村展示室、勝海舟記念館、多摩川台公園古墳展示室
スポーツ施設	7	大田スタジアム、平和島公園水泳場、大森スポーツセンター、平和の森公園弓道場、東調布公園水泳場、矢口区民センター温水プール、総合体育館、萩中公園水泳場
集会施設等	30	青少年交流センターゆいっつ、文化センター（11）、区民センター等（6）、その他集会施設（12）
合計	74	

2 区民・団体アンケート調査

(1) 調査概要

ア 調査目的

本調査は、区民の日頃の学習活動や地域での活動状況、学びに関わるニーズ、社会教育関係団体における活動実態等を把握し、「(仮称)新大田区生涯学習推進計画」を策定するための基礎資料を得ることを目的として実施しました。具体的には、区民を対象にしたアンケート調査と社会教育関係団体を対象にしたアンケート調査を実施しました。

イ 調査の実施概要

	区民アンケート調査	社会教育関係団体アンケート調査
調査対象	大田区在住の満18歳以上の区民	区に登録している社会教育関係団体
標本数	3,000名	1,851団体
標本抽出	住民基本台帳からの層化無作為抽出	全数
調査方法	郵送より配付・回収、WEB回収併用	郵送より配付・回収
調査期間	令和3年7月21日～8月17日	

ウ 調査内容

区民アンケート調査	社会教育関係団体アンケート調査
○学ぶことの意識について	○コロナ禍での活動状況について
○生涯学習について	○活動内容について
○普段の生活について	○大田区の生涯学習施策・事業について
○大田区の生涯学習施策・事業について	○基本属性
○基本属性	

エ 回収状況

	区民アンケート調査	社会教育関係団体アンケート調査
標本数	3,000名	1,851団体
有効回収数	1,164名 (郵送：859名、WEB：305名)	1,203団体
有効回収率	38.8%	65.0%

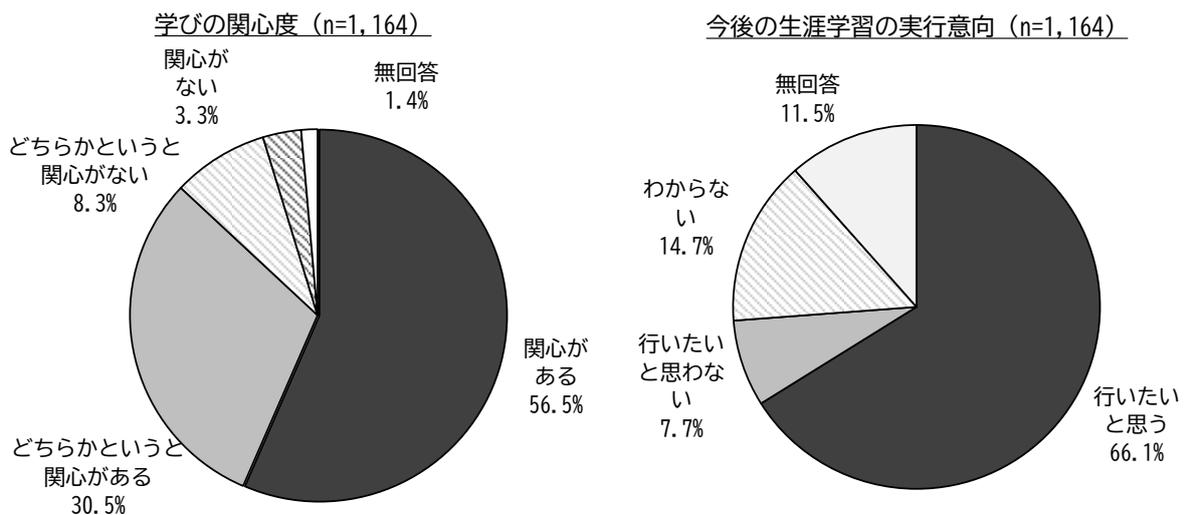
(2) 区民調査結果

ア 学びの関心度・今後の生涯学習の実行意向

学びの関心度が約9割、今後の生涯学習の実行意向が約7割を占めており、区民の学び・生涯学習への意欲は高い状況です。

また、生涯学習の実行意向について、性別では、大きな差異はみられませんが、年齢別では10代後半～50代までの実施意向率が7割を超えています。

図表2-9 学びの関心度・今後の生涯学習の実行意向

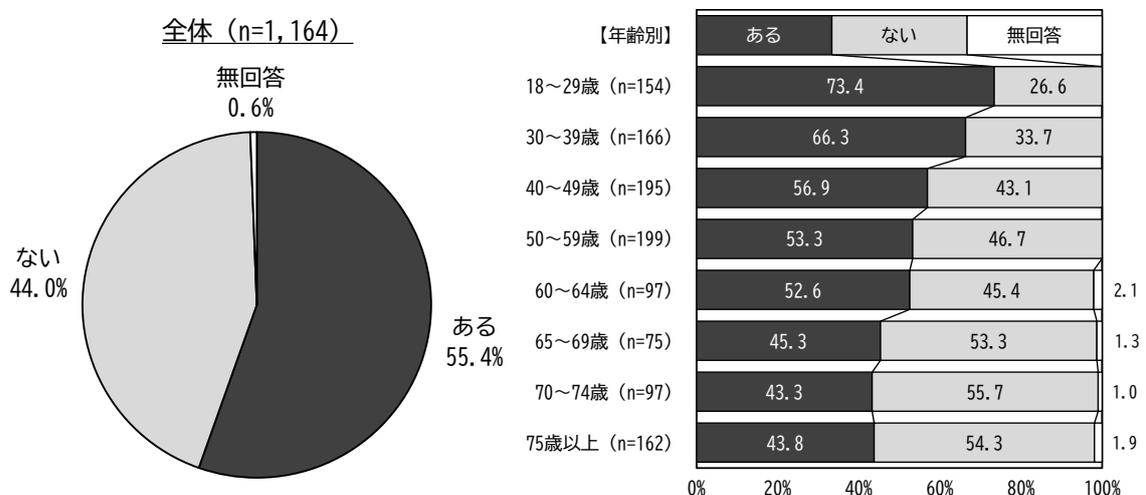


イ 生涯学習の実行状況

過去1年間の生涯学習の実行に関して「ある」が5割強、「ない」が4割強であり、意欲はあるが実行できていない層が一定数いることがうかがえます。

また、年齢別では、「18～29歳」が最も高く、若い層ほど実施率が高くなっています。

図表2-10 生涯学習の実行状況

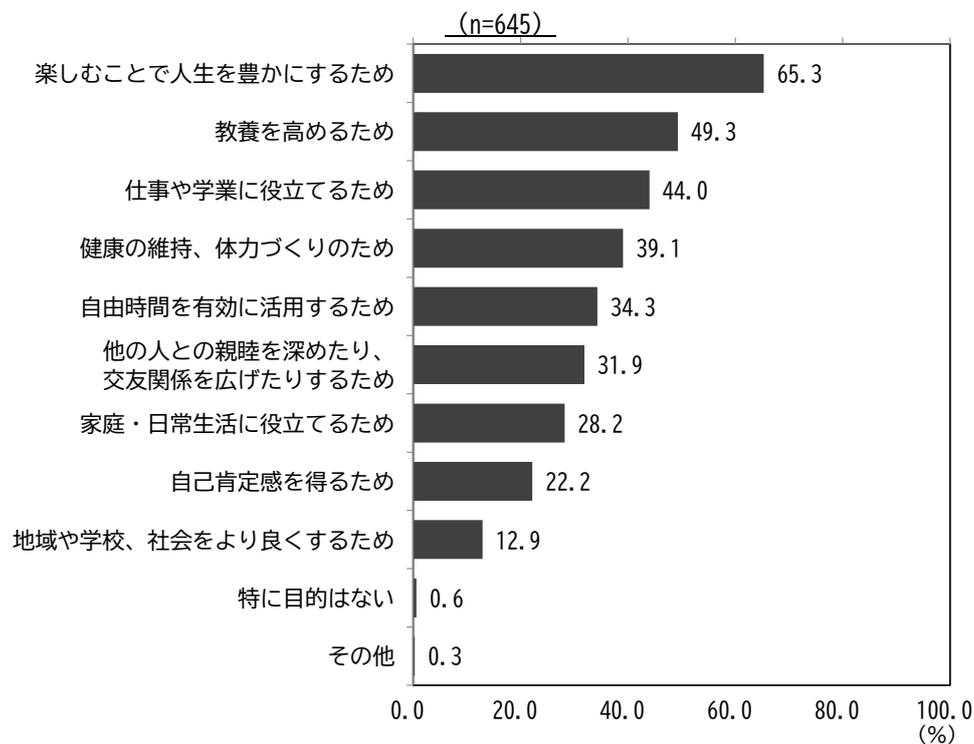


ウ 生涯学習を行う目的

生涯学習を行う目的は、「楽しむことで人生を豊かにするため」が6割強、「教養を高めるため」が約5割、「仕事や学業に役立てるため」が4割強の一方、「地域や学校、社会をより良くするため」は1割強にとどまっております、自らの学びを地域や社会へ活かす意識は全般的に低い状況です。

年齢別では、全ての層で「楽しむことで人生を豊かにするため」が最も高くなっていますが、2番目、3番目は、比較的若い層では「仕事や学業」「教養を高める」が挙げられている一方、高い層では「健康維持・体力づくり」「親睦・交友関係」が挙げられています。

図表2-11 生涯学習を行う目的



18～29歳	n=113	楽しむことで人生を豊かにするため (69.0%)	教養を高めるため (62.8%)	仕事や学業に役立てるため (60.2%)
30～39歳	n=110	楽しむことで人生を豊かにするため (64.5%)	仕事や学業に役立てるため (59.1%)	教養を高めるため (57.3%)
40～49歳	n=111	楽しむことで人生を豊かにするため (58.6%)	仕事や学業に役立てるため (55.9%)	教養を高めるため (45.0%)
50～59歳	n=106	楽しむことで人生を豊かにするため (66.0%)	教養を高めるため (62.3%)	仕事や学業に役立てるため (53.8%)
60～64歳	n=51	楽しむことで人生を豊かにするため (62.7%)	健康の維持、体力づくりのため (49.0%)	他の人との親睦を深めたり、交友関係を広げたりするため (47.1%)
65～69歳	n=34	楽しむことで人生を豊かにするため (64.7%)	健康の維持、体力づくりのため (50.0%)	他の人との親睦を深めたり、交友関係を広げたりするため (41.2%)
70～74歳	n=42	楽しむことで人生を豊かにするため (69.0%)	健康の維持、体力づくりのため (54.8%)	自由時間を有効に活用するため (35.7%)
75歳以上	n=71	楽しむことで人生を豊かにするため (71.8%)	健康の維持、体力づくりのため (52.1%)	他の人との親睦を深めたり、交友関係を広げたりするため (50.7%)

*最近1年間に生涯学習を行ったことが「ある」方が対象。年齢別は上位3項目。

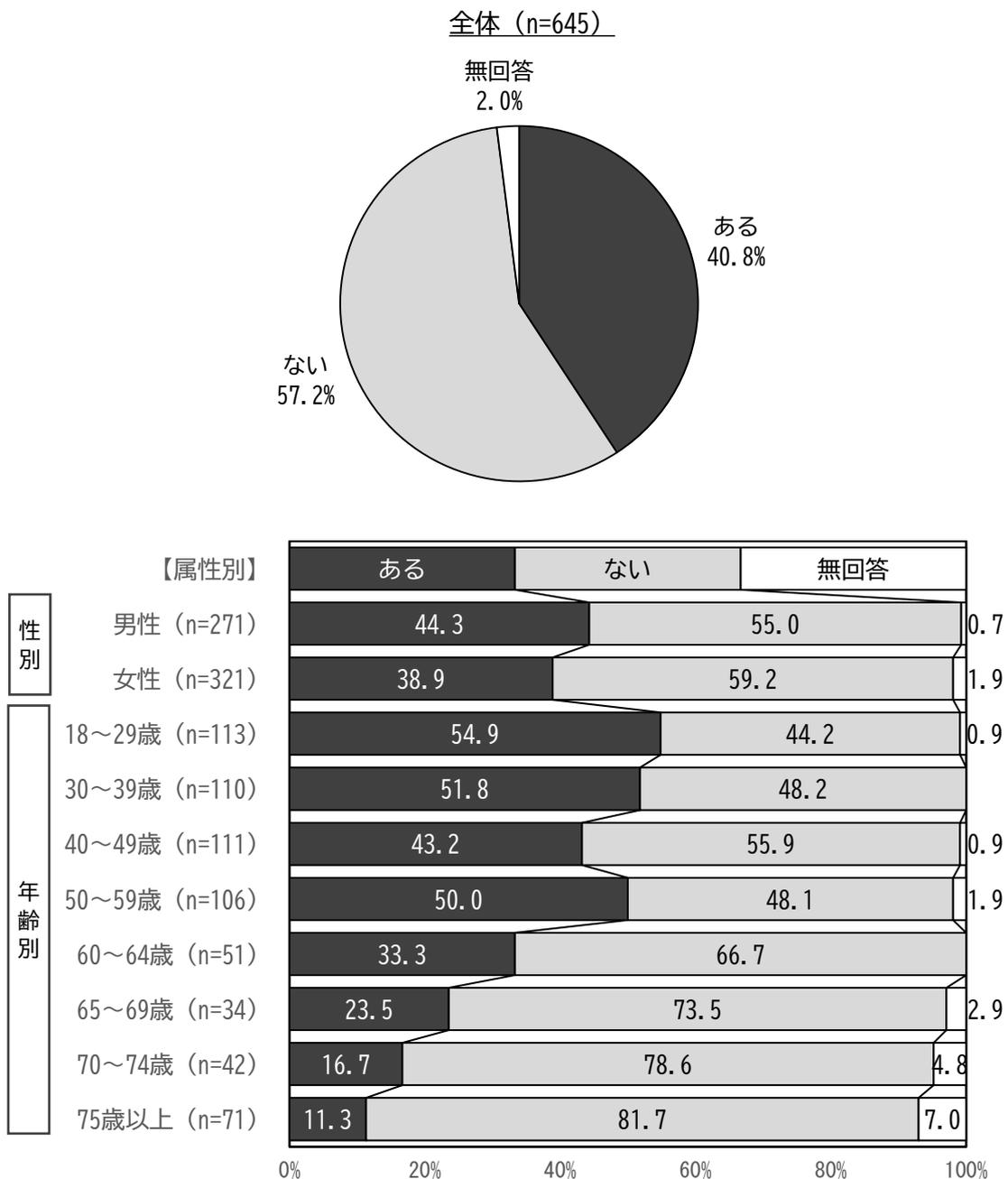
エ オンラインでの生涯学習経験の有無

オンラインで生涯学習を行ったことが「ある」が4割を占めており、今後、生涯学習の講座等を考えていく際には、対面型とともに非接触型のオンラインを活用した手法も検討することが求められます。

性別では、「男性」の方が「ある」が若干高くなっています。

また、年齢別では、「18～29歳」「30～39歳」「50～59歳」で「ある」が5割を超える一方、60代以上は年齢が高くなるに従い「ある」が低くなっています。

図表2-12 オンラインでの生涯学習の有無



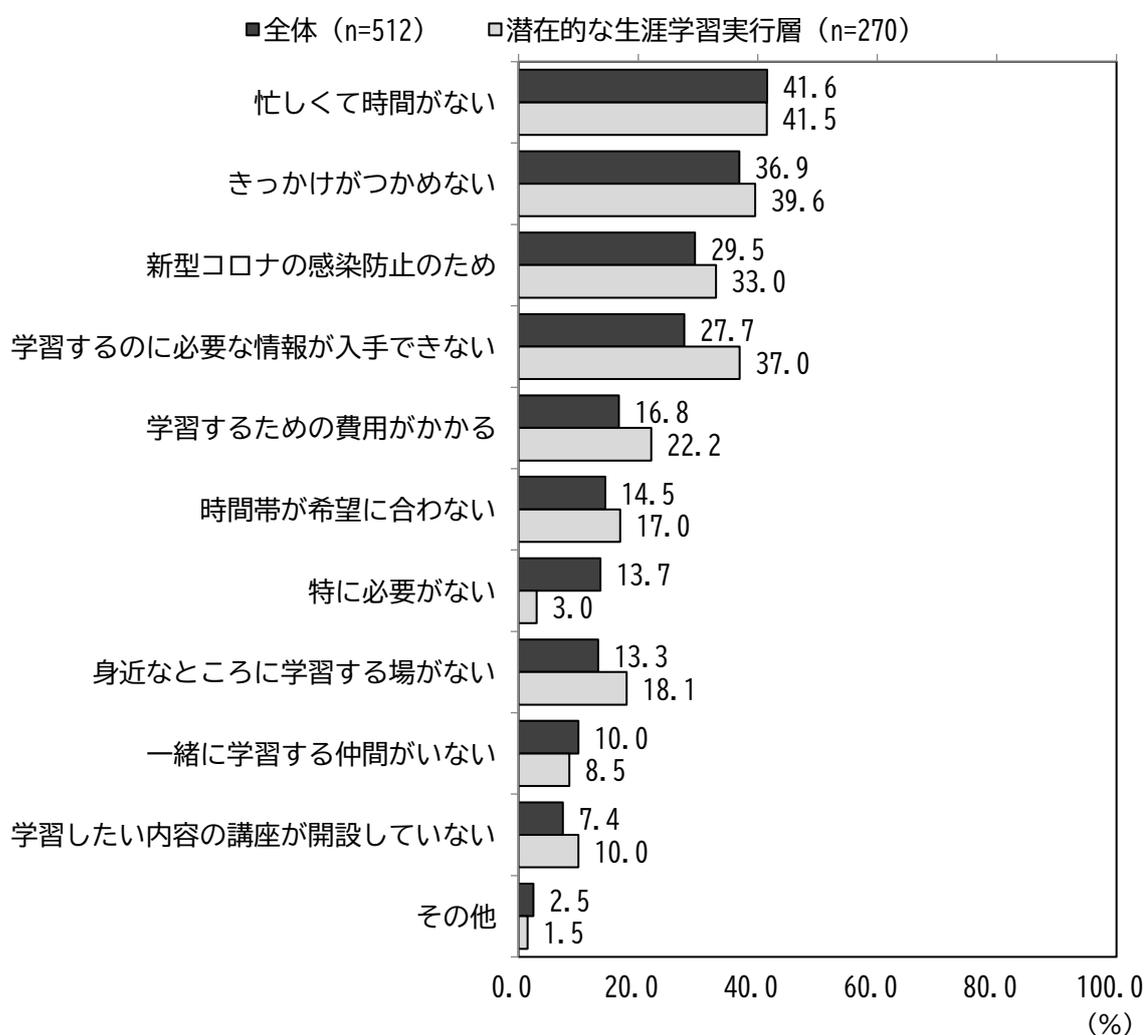
*最近1年間に生涯学習を行ったことが「ある」方が対象。

オ 生涯学習を行ったことがない理由

生涯学習を行ったことがない理由としては、「忙しくて時間がない」(約4割)に次いで「きっかけがつかめない」(3割半ば)、「新型コロナの感染防止のため」(約3割)、「学習するのに必要な情報が入手できない」(3割弱)が挙げられており、生涯学習のきっかけの提供や学習意欲を誘発する情報発信、コロナ対策を含めた学びの提案が求められます。

また、生涯学習に対する意識・行動別での「潜在的な生涯学習実行層」では、「忙しくて時間がない」が最も高く、次いで「きっかけがつかめない」までは全体と同様ですが、3番目に「学習するのに必要な情報が入手できない」(3割半ば)が挙げられています。

図表2-13 生涯学習を行ったことがない理由

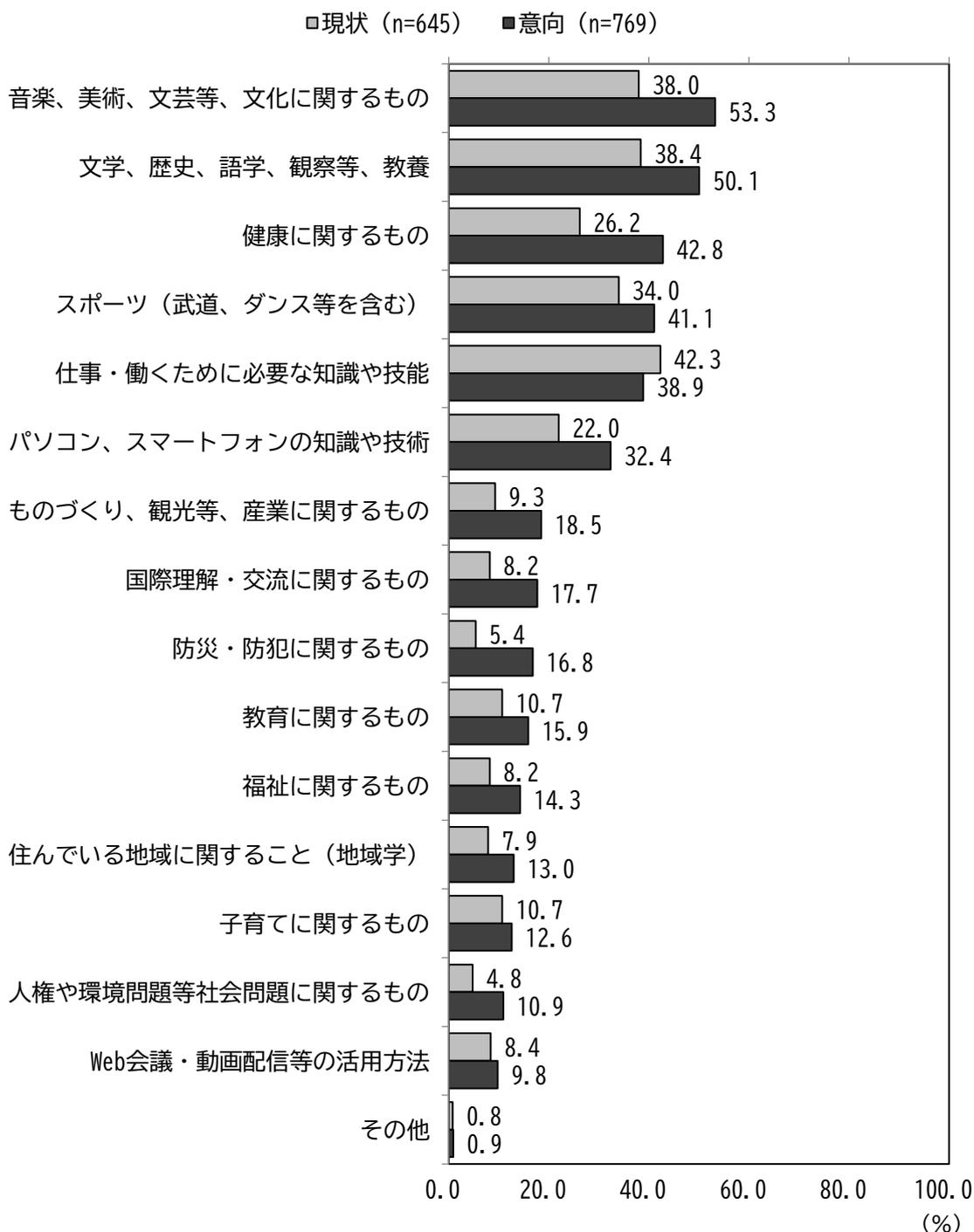


*最近1年間に生涯学習を行ったことが「ない」方が対象。

カ 生涯学習の内容（現状と意向の比較）

生涯学習の内容に関して、現状と意向を比較したところ、「仕事・働くために必要な知識や技能」を除き、現状よりも意向の方が高くなっており、幅広い分野において潜在的な学びのニーズがあることがうかがえます。

図表2-14 生涯学習の内容（現状と意向の比較）



キ 普段の生活での気持ち

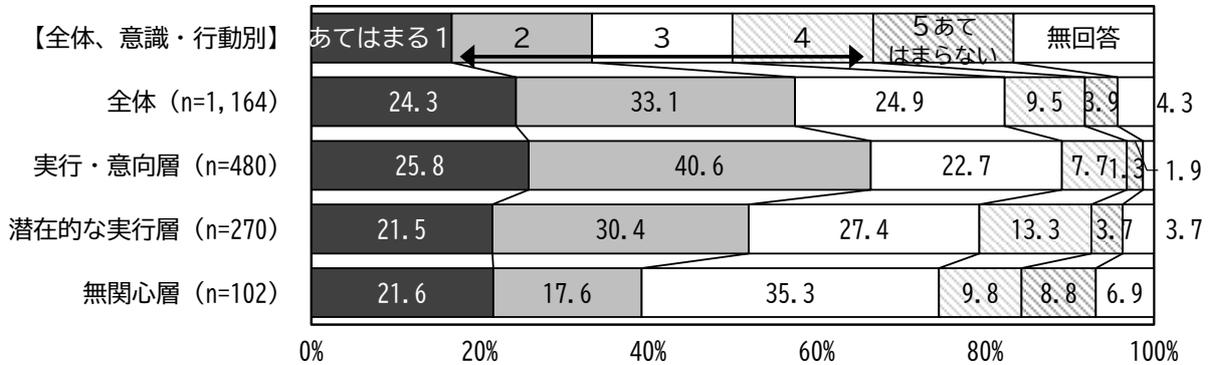
「自分らしく生きている」「充実した生活を送っている」「心身ともに健やかな生活を送っている」等、5段階でどの程度あてはまるかを聞いてみました。

生涯学習に対する意識・行動別で見ると、「生涯学習実行・意向層」では、全項目で「あてはまる1」と「2」の合計が6割を超えており、「潜在的な生涯学習実行層」や「無関心層」よりも高くなっています。

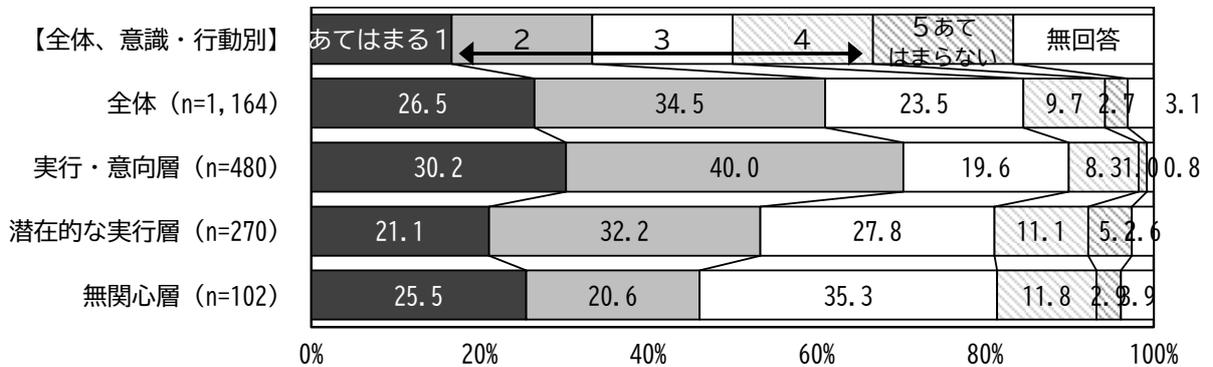
生涯学習を行い今後も継続する意向がある層の方が、生涯学習に無関心な層よりも、自分らしく生きていること、充実した生活や健やかな生活を送っていることへの実感が強いことがうかがえます。

図表2-15 普段の生活での気持ち

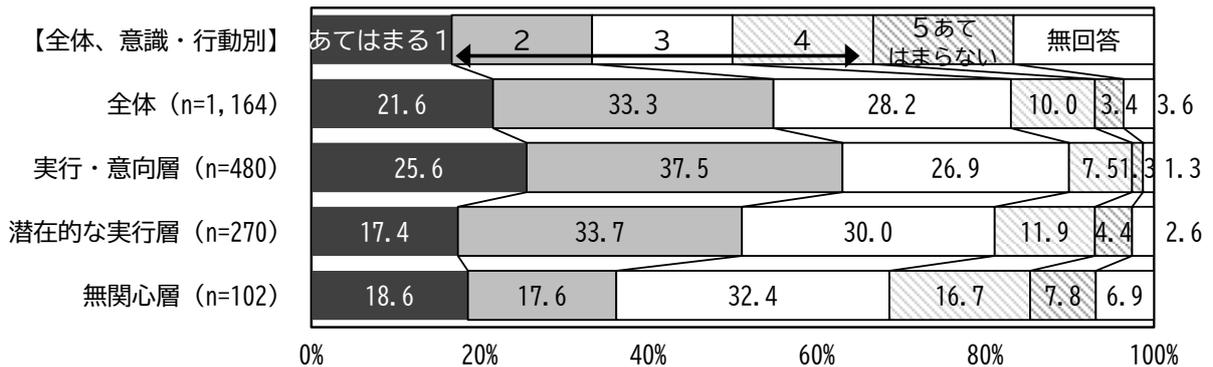
【心身ともに健やかな生活を送っている】



【自分らしく生きている】



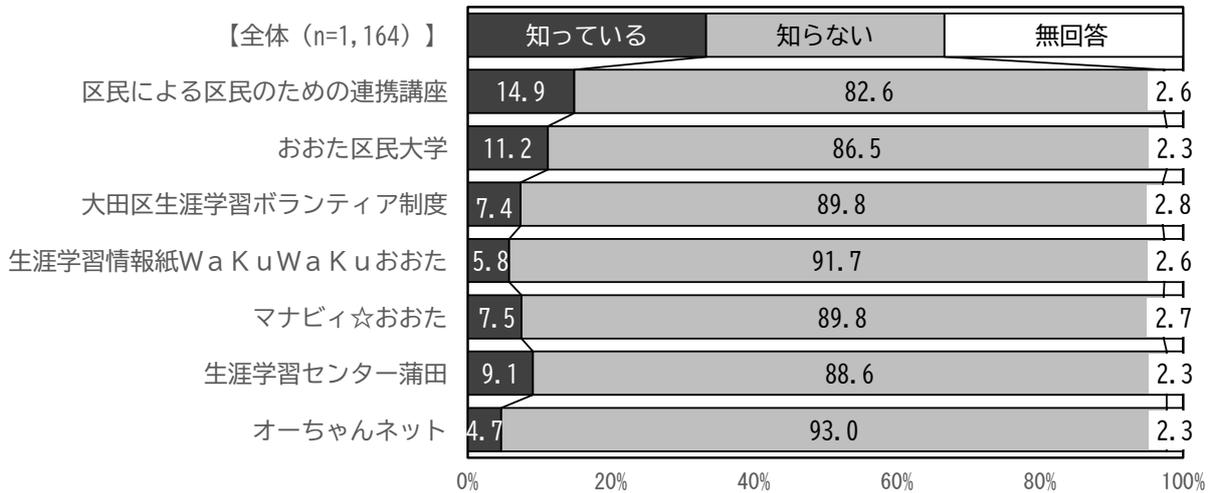
【充実した生活を送っている】



ク 区の生涯学習に関する事業や情報紙などの認知度

区の生涯学習に関する事業や情報紙などの認知度は、「区民による区民のための連携講座」が1割強、「おおた区民大学」が約1割、その他は1割未満にとどまっており、区の生涯学習に関する事業の情報が十分に区民に到達していない状況です。

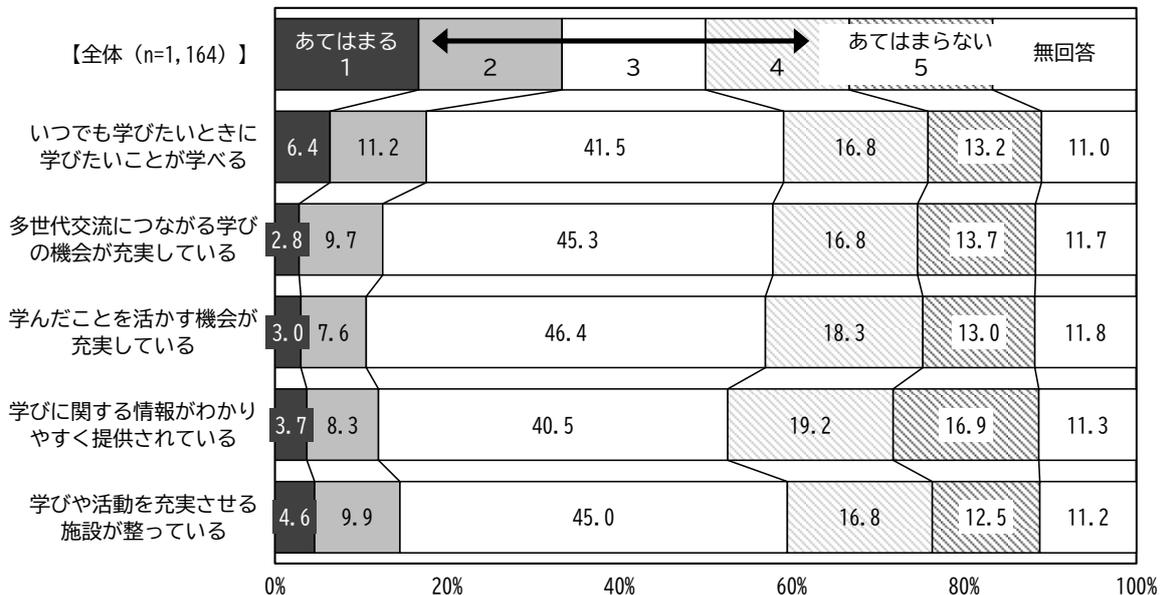
図表2-16 区の生涯学習に関する事業や情報紙などの認知度



ケ 区の生涯学習に係るソフト面・ハード面の環境

大田区の生涯学習に係るソフト面・ハード面の環境について、全項目でニュートラルな「3」の割合が最も高く、良い・悪いの判断が十分にできる程の情報が多くの区民には到達していないことがうかがえます。また、「1 あてはまる」と「5 あてはまらない」との比較をみると、全ての項目でネガティブ評価がポジティブ評価を上回っており、区の生涯学習を取り巻くソフト面・ハード面での環境のより一層の充実が求められます。

図表2-17 区の生涯学習におけるソフト面・ハード面の環境

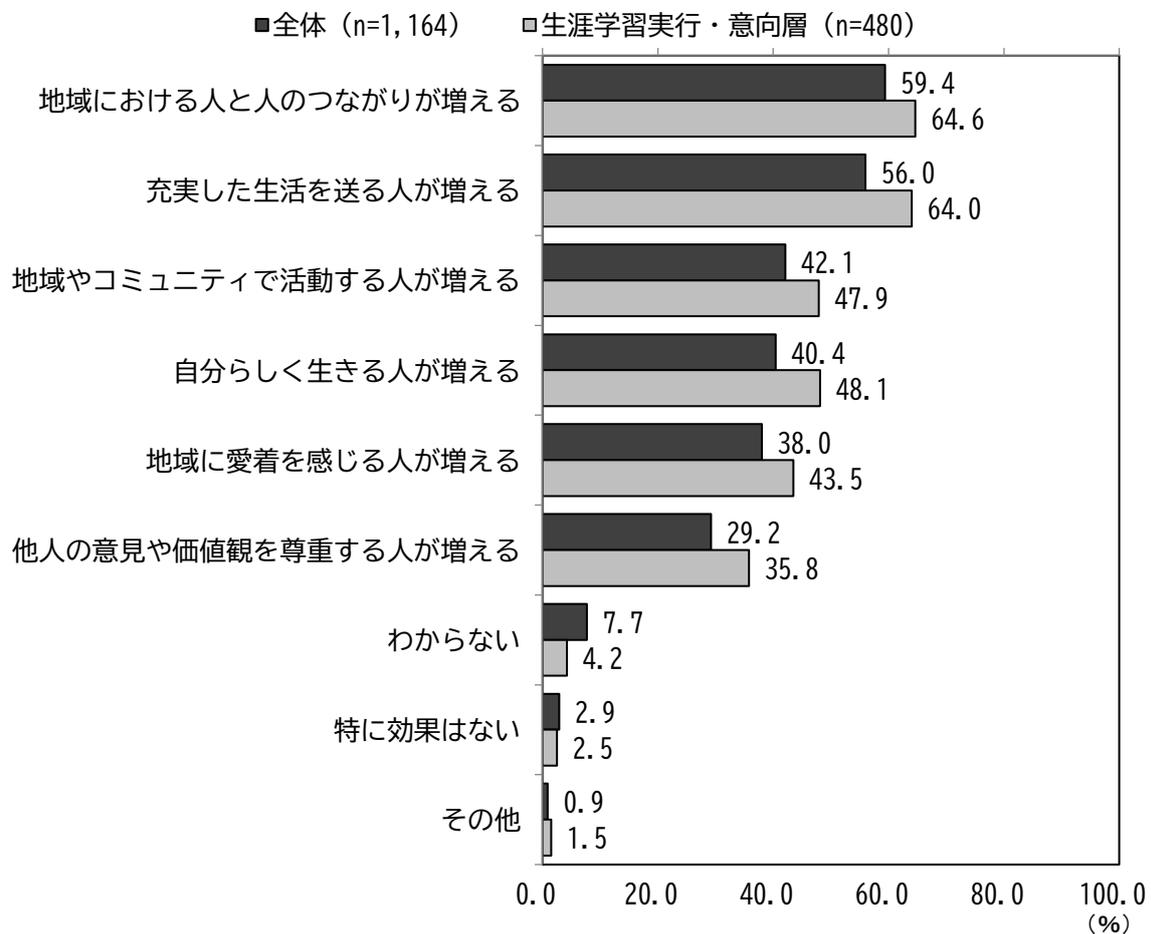


コ 区が生涯学習を推進することによるまちへの効果

区が生涯学習を推進することで、まちにどのような効果があるかについて、「地域における人と人のつながりが増える」が6割を超え最も高くなっており、生涯学習の推進による地域力の向上という考え方が、区民から後押しされる素地があると考えられます。

生涯学習に対する意識・行動別での「生涯学習実行・意向層」でも、全体同様、「地域における人と人のつながりが増える」が最も高く、次いで「充実した生活を送る人が増える」となっています。また、全体に比べて、生涯学習を行い今後も継続する意向がある層の方が、全ての項目で高くなっており、実際に生涯学習を行っている層ほど、生涯学習のまちへの効果を実感していることがうかがえます。

図表2-18 区が生涯学習を推進することによるまちへの効果

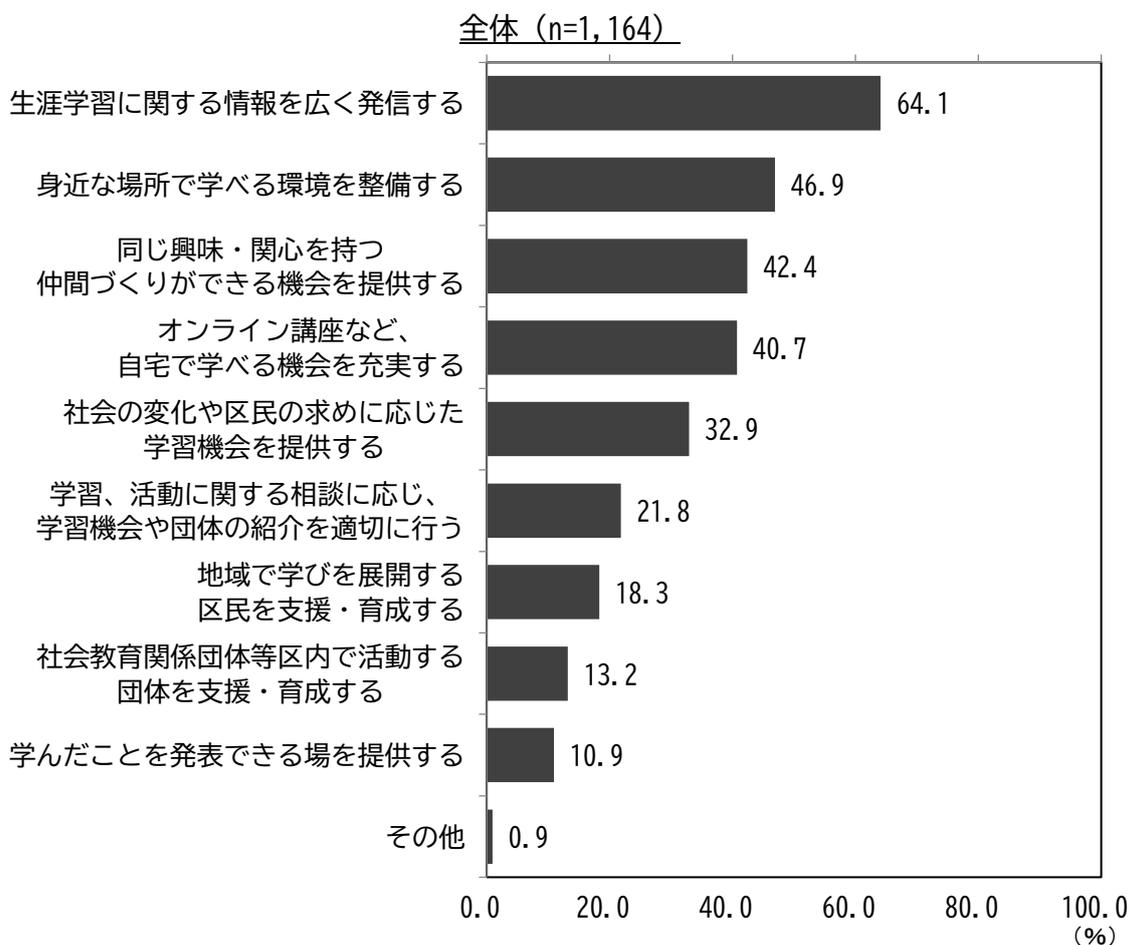


サ 生涯学習を盛んにするために重視すべき点

今後、生涯学習を盛んにするために重視すべき点として、「生涯学習に関する情報を広く発信する」(6割強)、「身近な場所で学べる環境を整備する」(5割弱)、「同じ興味・関心を持つ仲間づくりができる機会を提供する」(4割強)、「オンライン講座など、自宅で学べる機会を充実する」が上位に挙げられています。

今後、区民に対して生涯学習施策・事業を展開していく際には、情報発信、学べる環境整備、仲間づくり、オンライン等が重要なキーワードになると考えられます。

図表2-19 生涯学習を盛んにするための重視点



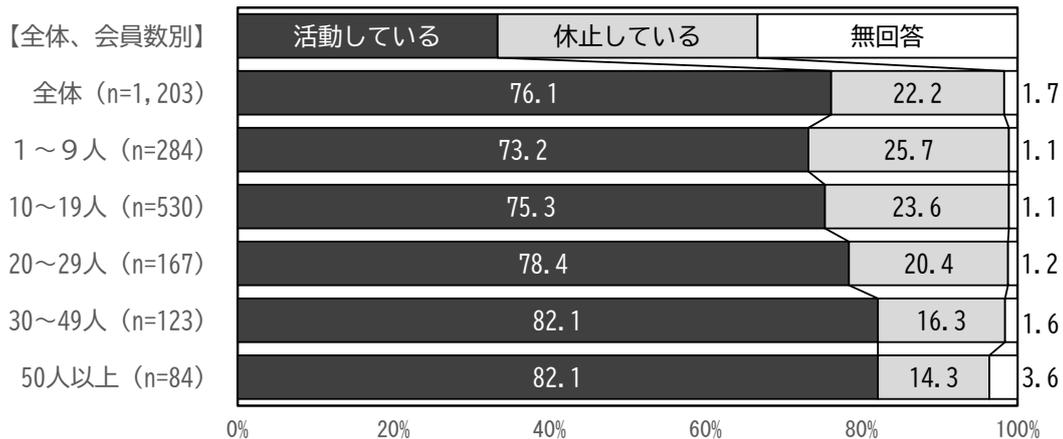
(3) 団体調査結果

ア コロナ禍での活動状況

コロナ禍での活動状況について、「休止している」が約2割を占めており、コロナ禍においても様々な工夫を行うことで活動を継続している先進事例の紹介等により、休止している団体に対して活動再開に向けた後押しを行うことが求められます。

また、会員数別では、規模の小さな団体程「休止している」が高くなっています。

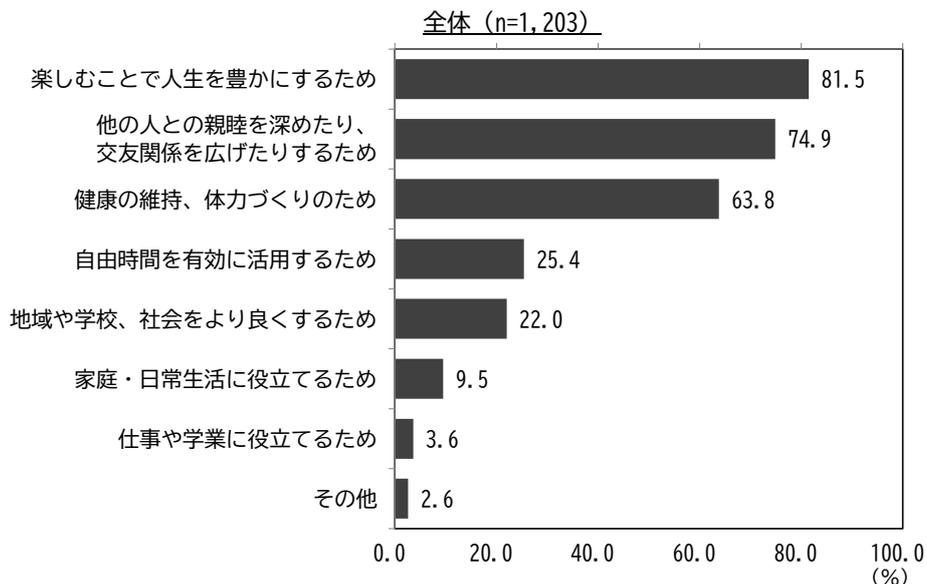
図表2-20 コロナ禍での活動状況



イ 活動目的

活動目的は、「楽しむことで人生を豊かにするため」が最も高く、次いで「他の人との親睦を深めたり、交友関係を広げたりするため」、「健康の維持、体力づくりのため」となっており、区内の社会教育関係団体は、個人の学びの支えとともに、学びを通じた人と人とのつながりを支える役割を果たす存在であることがうかがえます。

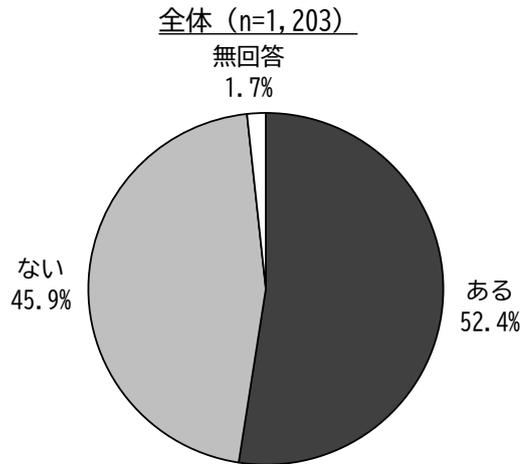
図表2-21 主な活動目的



図表2-22 他団体との交流経験

ウ 他団体との交流経験

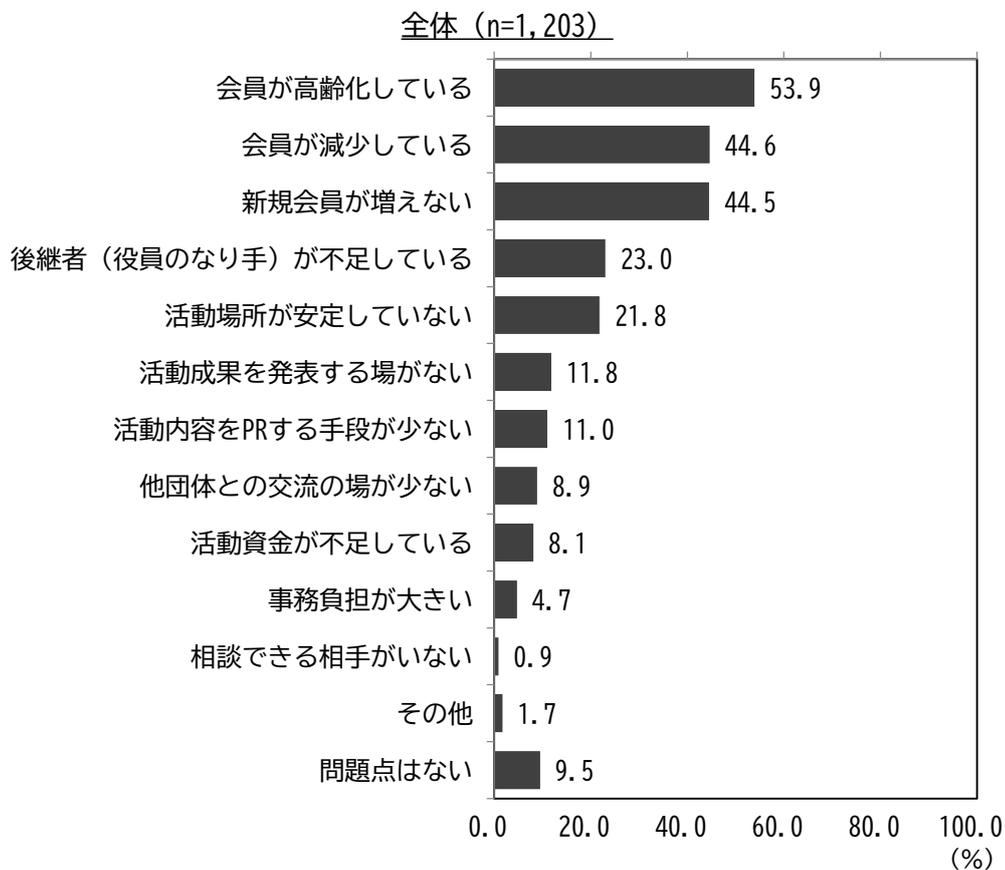
地域の他団体（他の社会教育関係団体、商店街、企業、学校等）と交流した経験は、「ある」が約5割を占めており、団体単体への支援だけではなく、団体と団体をつなぐ、新たな交流・つながりを創出する支援へのニーズがあると考えられます。



エ 活動を継続していく際の問題点

新型コロナウイルス感染症の影響とは別に、今後、活動を継続していく際の問題点について、「会員が高齢化している」（5割強）、「会員が減少している」（5割弱）、「新規会員が増えない」（5割弱）が上位に挙げられており、団体活動の持続可能性を向上させるための支援が必要だと考えられます。

図表2-23 活動を継続していく際の問題点

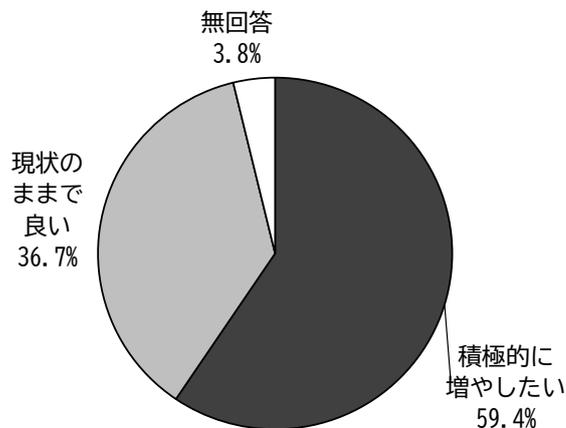


オ 新しい会員の獲得

新しい会員の獲得について、「積極的に増やしたい」が約6割を占めており、新規会員獲得を目指す団体についての活動内容等の情報発信の充実が求められます。

図表2-24 新しい会員の獲得

全体 (n=1,203)

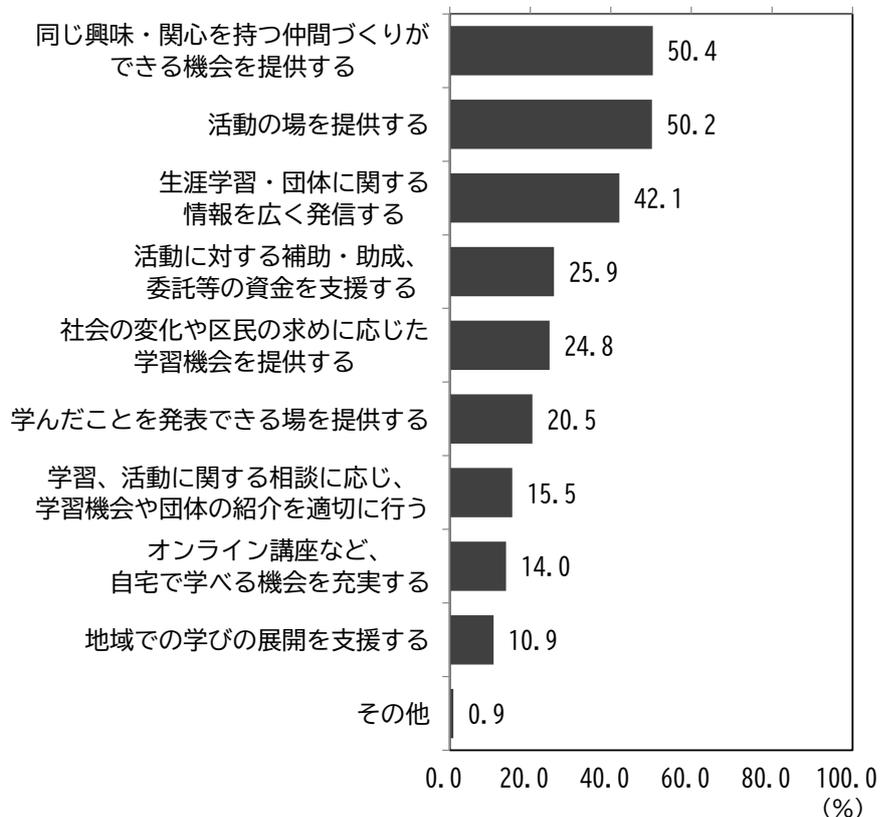


カ 生涯学習を盛んにするための重視すべき点

今後、生涯学習を盛んにするための重視すべき点として、「同じ興味・関心を持つ仲間づくりができる機会を提供する」「活動の場を提供する」(ともに約5割)、「生涯学習・団体に関する情報を広く発信する」(約4割)が上位に挙げられており、社会教育関係団体に対して生涯学習施策・事業を展開していく際には、仲間づくり、活動の場の提供、団体情報の情報発信等が重要なキーワードになると考えられます。

図表2-25 生涯学習を盛んにするための重視点

全体 (n=1,203)



3 団体ヒアリング調査

(実施中)

4 特色からみた現状と課題

「大田区の生涯学習に関わる地域特性」「区民・団体アンケート調査」等を踏まえ、以下の5つの特色から区の生涯学習における現状と課題をまとめました。

1 学ぶ意欲のある区民が多いこと

区民の学ぶことへの意欲は高いですが、意欲があっても実行できていない層が一定数おり、時間・情報・きっかけの不足、感染症が障壁となっていることがわかります。区は情報紙の発行やHPによる広報など、裾野を広げるための情報発信を行ってきましたが、区の生涯学習に関する情報が十分に区民に届いていないことがわかりました。

生涯学習に意欲のある区民の誰もが参加できるよう、多様なニーズに応じた学習機会の提案やきっかけづくりが求められます。オンラインで生涯学習を行ったことがある区民が4割もいること、コロナ禍における学習機会の確保にもつながることから、デジタル媒体を効果的に活用した学習環境の整備や広報が重要となります。

2 多様な主体が生涯学習機会を提供していること

大田区は羽田空港や町工場、商店街等特色ある資源を有し、多様な主体がそれを生かした生涯学習の機会を提供しています。区民アンケートの結果からは、幅広い分野において潜在的な学びのニーズがあることが明らかになっています。一方で、多様な主体がそれぞれ事業等を展開しているため、区民にとっては分かりづらい状況にあります。

多様な主体が提供している、生涯学習に係る取り組みを体系化し連携することで、大田区の資源を最大限生かしながら、区民の多様な学びのニーズに応える必要があります。

3 社会教育関係団体の活動が活発であること

団体調査結果の活動目的から、社会教育関係団体は個人の学びを支えるとともに、学びを通じた人と人とのつながりを支える役割を果たしていることが分かります。大田区に登録のある社会教育関係団体はその数が豊富なだけでなく、新規会員の受け入れ意向や地域の他団体との交流状況から、地域に開かれた活動をしていると言えます。一方で、コロナ禍において、活動を休止せざるを得ない団体や会員の高齢化や減少等活動の継続に問題を抱えている団体があります。

社会教育関係団体の活発な活動の維持及び更なる活性化のためには、仲間づくり、活動の場の提供、団体情報の発信等個別の団体への支援だけではなく、団体同士をつなぐための支援が必要であると考えられます。

4 生涯学習によるつながりづくりが期待されていること

生涯学習を行う目的は、人生を豊かにするためや教養を高めるためなど、自分自身のための学びが主で、自らの学びを地域や社会へ活かすことを目的としている区民の割合は低い傾向にあります。一方で、区が生涯学習を推進することによる効果として、「地域における人と人とのつながりが増える」と考えている区民の割合が最も高い結果となりました。

個人の学びを深化・拡充させる過程で、必要に応じて人やコミュニティとつながる仕組みづくり、そこから発展する活動の支援を拡充する必要があります。

5 区民にとって身近な場所に学びの場があること

大田区内には生涯学習関連施設が全域に配置されており、社会教育関係団体等が地域で活動できる場が充実しています。一方で、施設への職員配置の変更等により各施設での職員と利用者との接点及び利用者同士の交流の希薄化が指摘されています。区民アンケート調査の結果では、「学びや活動を充実させる施設が整っている」項目が、低い評価にとどまっています。

区民に身近な施設での学習活動をさらに促進するためには、活動場所に関する情報提供を拡充するとともに、施設等での生涯学習相談やコーディネート機能強化など新たに学び始める区民と学びを更に深める区民に対するサポートが求められます。

第3章 計画の内容

1 基本理念（案）

区民アンケートの結果、生涯学習実行・意向層の方が、生涯学習無関心層よりも、自分らしく生きていること、充実した生活や健やかな生活を送っていることへの実感が強いことがうかがえます。区は生涯学習の機運をさらに高めていくことで、より多くの区民が学びを通じて充実した暮らしを実感できる状態を創出することが求められています。

こうした本区の生涯学習に関わる現状や特色をもとに、大田区がめざす生涯学習施策のありかたを基本理念として設定します。

（案1）

一人ひとりの学び、学びを通じた人と人のつながりが
地域力をはぐくむ笑顔あふれるまち

（案2）

学びを通じて地域力をはぐくむ
誰もが生きがいをもって暮らせるまち

（案3）

学びが地域を支え、自分らしく生きがいをもって
暮らすことができるまち

趣味やサークル活動などの自発的な学びは、心の豊かさをもたらすだけでなく、新たな関心を育みます。

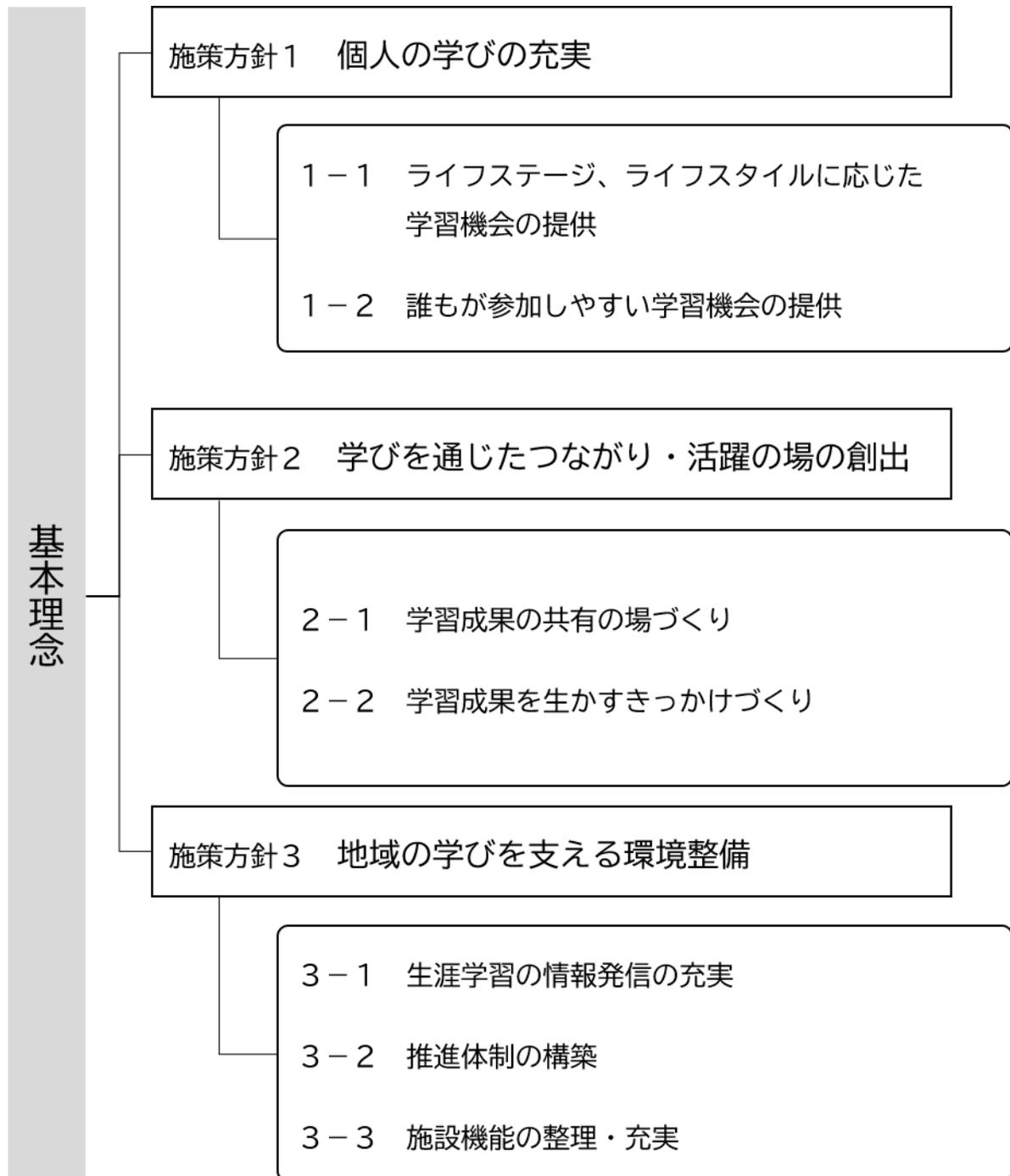
新たな関心が新たな学びにつながり、さらなる知的欲求の充足や生活の改善、自己実現につながります。

また、学び合いを通じて相互に理解し認め合うことで、自己肯定感や幸福感、つながり意識などが生まれて、区民同士の絆が深まります。

学びにより生きがいを持った区民が増えること、また、学び合いにより区民同士の絆が深まることで、地域力が向上し、誰もが自分らしく、心身共に健康に暮らせるまちとなります。

2 施策体系（案）

図表3-1 施策体系



3 施策・事業

施策方針1 個人の学びの充実

価値観やライフスタイルの多様化を踏まえ、区民一人ひとりの興味・関心に応じて学習できる機会を創出します。

また、年齢や国籍、障がいの有無、育児・介護等に関わらず、学ぶ意欲のある区民誰もが学べる環境を整備します。

1-1 ライフステージ、ライフスタイルに応じた学習機会の提供

価値観やライフスタイルが多様化する中、区民には幅広い分野において潜在的な学びのニーズがあります。このため、あらゆる世代の区民が、ライフステージや関心に応じて学習を選択できるよう、多様な学習提供主体と連携しながら学習機会の充実に取り組みます。

主な事業例：おおた区民大学

→講義形式、ワークショップ形式、講座企画会等様々な学習形態により、社会、歴史、人権など、様々なテーマについて学ぶ場です。

他の事業例：スポーツ教室、日本語教室、子育て講座、介護予防事業等

1-2 誰もが参加しやすい学習機会の提供

区民の学ぶことへの意欲は高い一方で、様々な障壁により意欲があっても実行できていない層が一定数います。このため、学ぶ意欲のある区民誰もが学び始められるよう、デジタル媒体を活用した学習機会の提供や保育環境の整備、外国籍の方・障がいのある方へのサポート等、学習しやすい環境を整えます。

主な取り組み例：オンライン・オンデマンドによる配信、保育環境の整備、外国籍・障がいのある方が参加できる講座等

施策方針2 学びを通じたつながり・活用の場の創出

個人が生涯学習を行う目的は、自分自身のためであることが主であるものの、区が生涯学習を推進することで、地域における人と人のつながりが増えることが期待されています。

生涯学習を通じて身につけた知識や技能などを共有・活用する機会により、個人の学びを深め、広げるきっかけづくりを行います。また、学習者に応じたコーディネートにより、他の学ぶ人やコミュニティとつながり、活動を展開するためのサポートを行います。

2-1 学習成果の共有の場づくり

生涯学習によって人と人のつながりが増えることが期待されていることから、学んだことを自分の更なる学びにつなげるだけでなく、他者と共有することによって深めることや、学びをツールとしたつながりづくりもサポートします。

主な事業例：NPO・区民活動フォーラム

→区内で活動する区民活動団体やNPO等の実践的な取り組みを、体験コーナーや展示などを通じて発表します。地域で活動する楽しさややりがいをPRし、活動に向けた意識啓発を行います。

他の事業例：文化センターまつり、写真展等

2-2 学習成果を生かすきっかけづくり

学びによって得た知識や経験を活用したいと考える区民や団体が、これから学ぼうとする区民をサポートできるよう、交流機会の設定や団体づくり・運営に関する相談等、活動を始めるきっかけづくりや、活動を継続するためのサポートを側面から行います。

主な事業例：生涯学習人材育成講座

→区民の主体的な学習活動の推進役となる人材を育成するため、社会教育・生涯学習の基礎について学ぶ機会や地域とのつながりを築く機会を提供します。

他の事業例：リーダー・担い手の育成、養成講座等

施策方針3 地域の学びを支える環境整備

大田区では、多様な主体が特色ある区の資源を活用しながら学習機会を提供しています。また、区内には文化センターや区民センター、図書館など地域に根差した施設が全域に配置されています。こうした資源を最大限生かし、区民の学習参加を促すため、多様な主体と連携しながら学習環境を整備します。また、学習機会の提供だけでなく、情報を体系化し可視化することで、学びたいことと学べることがつながる情報の発信を行います。

3-1 生涯学習の情報発信の充実

各主体別に提供している様々な学習情報の体系化を行い、区民の学びたいことと学べることがつながる情報発信を行うことで、生涯学習を始めるきっかけをつくります。「生涯学習」という言葉を認識していない区民であっても、必要な情報にたどり着きやすくなるような工夫をします。

主な事業例：生涯学習情報紙「WaKuWaKu おおた」

→生涯学習を行うきっかけづくりを目的とし、大田区が主催・共催する生涯学習に関する講座やイベント等を集約・掲載した情報紙です。

他の事業例：イベント情報紙、ウェブサイト等

3-2 推進体制の構築

区民が地域で主体的に学習し、豊かな人生を送ることで地域力を向上させるためには、それを支える様々な主体との連携が必要です。関係機関、学校、家庭、地域、大学、企業、NPO等と積極的な連携・交流を図ることで生涯学習施策を推進します。

3-3 施設機能の整理・充実

地域に根差した施設を拠点とし、利用者と地域住民の学習ニーズに応えながら、情報の発信、学習の場の提供、つながりづくり等を通じて、誰もが学びに参加しやすい環境を整えます。

第4章 計画の進捗管理

1 推進体制

(作成中)

2 進捗管理方法、数値目標・指標の設定

(作成中)